論　文

保育を学ぶ学生の倫理教育に関する研究
―道徳的推論および道徳的発達段階の調査より―

谷　川　友　美

A Research on Ethics Education of Student who Learns Child Care:
From the Investigation of Moral Reasoning and Moralistic Developmental Stage

Tomomi TANIGAWA

【要　　旨】

保育における倫理教育の検討に関する基礎的資料を得るために、保育を学ぶ学生を対象に、道徳的推論および道徳的発達段階に関する質問紙調査を実施した。有効回答数は162、調査対象の平均年齢は19.92歳であった。結果は、道徳的推論のうち社会的規範意識を高齢者と障害者を例に挙げて援助を行うかどうか尋ねたところ、高齢者へは109（68%）、障害者へは127（79%）が積極的に援助すると回答した。DIT 日本版のうち３つの例話をもとに、道徳的発達段階を検討すると、学生は水準２慣習的水準である３段階（対人的同調、あるいは「よいこ」志向）の傾向があった。道徳的推論は社会的環境による影響を受け、また道徳的発達は人間関係に価値を置く段階へと発達を遂げていることが示唆された。

Ⅰ．はじめに

少子化・高齢化が進む現代は、サービス提供を担う専門職者の倫理性と責務の自覚が問われてきている時代といえよう。様々な分野において、倫理綱領の作成・改訂が行われ、第３者評価の策定が進められている。このような動きは、倫理観の高い専門職者の育成が求められ、その育成こそがひいてはその分野の質の向上へ繋げられるからであろう。保育分野も同様に、保育士資格の法定化に伴い、2003年保育士倫理綱領が策定され、倫理的指針が明確になった。現在の保育士倫理綱領は、保育士が専門職者として、どのように行動すべきか指し示すという意味で効力をもち、今後の普及が望まれる。

保育実践の根底には、こどもの人間としての尊厳を守り、よりよい保育を提供するという、倫理への問いかけが不可欠である。また日常の保育実践の中に、内在している倫理的問題を、敏感に感じ取り、適切に対応することは、保育士の責務であり、同時に自らの専門職としての基盤の確立につながる。そのためには、いかに保育士の倫理的感受性を高め、倫理的視点を育むかといった議論が必要となるといえる。

保育士らは日々の保育実践の中で「よい保育」を提供したいと努力している。しかし実際には、保育現場の様々な制約のため思い通りの保育が実現できないと感じたり、保育所の社会的責任（個人情報の保護と苦情解決、地域交流と

説明責任など）といった多岐業務の中で、どのような保育がよい保育なのか、どのようにしたらそれを実現できるのか悩むことも少なくない。日常の保育の中で直面する問題の多くは、倫理的な問題というよりもむしろ保育士個人の知識不足や技術など能力の問題、組織の運営上の問題、あるいは個々の人間関係の問題として捉えられ、保育現場における倫理そのものについての十分な検討がなされていないというのが現状である。

先行研究では、国内において保育士の倫理に関する文献そのものが少ない。国外の倫理綱領の紹介は数件みられるも、保育士の倫理を明確化もしくは倫理的な保育実践を明らかにするものはない。倫理綱領の内容を実践するにあたり、常に倫理的ジレンマが生じることは、医療・看護・福祉領域等研究結果でも明確である[1~10]。しかし、保育分野における先行研究では、日本における保育士の倫理的ジレンマおよびその対処方法に関する文献は皆無であり、現在のところ、大宮による海外の状況を紹介した「保育学研究」による論考と[12]、鶴のニュージーランドにおける保育倫理綱領の紹介されている資料[11]のみとなっている。また、保育の倫理教育に関する研究では、倫理教育は体系化されておらず、保育の学習機関およびその機関に所属する教員の裁量に任されているのが現状といえる。他分野の倫理教育の歴史では、基礎教育と卒後教育の両面からのアプローチが必要とされている。保育界でも同様に、国の政策の遂行と同時に保育士自身の倫理教育、ことに基礎教育及び卒後教育の両面からのアプローチが必要といえよう。

保育士の倫理的判断能力は、こどもの命や生活の質に関与する倫理的問題への感知力、保育士自身の価値観と関係者間の価値観の葛藤や対立について分析及び判断力、さらにこれらの認識過程を実際的な保育へ結び付けていく総合的な能力である。この能力の基盤には、幼少期からの道徳性の発達があり、その延長上に保育者の専門職としての倫理的判断能力が培われる。しかし昨今では、若者の道徳性や論理的な分析力および総合力の低下が指摘されており、そのことは保育を学ぶ学生も例外ではない。とりわけ、道徳性はその個人が所属している社会の影響を大きく受け、何を是とし何を非とするかは個人の価値判断に基づくが、それ自体がすでに社会の価値観の影響下に存在する。そして、保育実践は対象であるこどもに対して、何をなすべきか、何が最良であるかという意思決定の連続であり、常にどのような判断が倫理的に妥当であるのかを問われている状況にある。

道徳性については、様々なとらえ方があるが、そのうちの一つとして認知発達理論に基づいた、コールバーグの発達理論が有名である[13・14]。その理論に基づくと、葛藤を生じる状況で、水準１は他律的な道徳性への追従で、様々な立場から見るということが十分にできない。それが水準２に発達すると、両者の立場でものを見る事ができ、世間の目や普遍的社会規範に従った行動をとる段階に達する。水準３は現在の社会規範ではなく、普遍的な人間としての権利という視点から見て、理想的な行動の選択をする段階と位置付けている。その結果、規範には反する不正行動を道徳性では是とする視点が強調される。この３水準はさらに各２段階に分けられ全部で６段階に分類される（Table１）。日本人対象の研究では、第３水準と判定されても不正を是としない判断が多く、「人間としての権利」と「法を守る義務」としての対立図式で判断しないことが示されている[14・15]。したがって、是非の判定については詳細な検討が必要である。さらに、道徳判断の検査方法には、レストらが開発したDIT（Defing Issues Test：道徳的論点検査、MJI（The Moral Judgment interview：道徳的判断面接）、SMR（Socio Moral Reflection：社会道徳的内省）がある[14]。コールバーグは、道徳的葛藤を引き起こす例話を提示し、葛藤の解決についての面接を行い、その分析をした。レストらは葛藤をどのような問題としてとらえるかということに着目し、あらかじめ用意した選択項目についての重要性を質問紙で回答してもらう方法を開発した。このDITはコールバーグのスケールとの

相関が高いことが示されており、また日本においてはすでに山岸がDIT日本版を開発し、その妥当性を検証している[14]。

さて、保育界に転じてみると、少子化が進み、こどもを取り巻く環境や育児に関する政策や考え方も様々紹介されてきている。保育の質の向上のためには、基礎教育及び卒後教育の両面からの倫理教育のアプローチが必要である。基礎教育における重要課題として、保育を学ぶ学生の倫理的な認識体系やその分析と判断力をどう育成するかがあるのではないだろうか。

そこで、本研究の目的は、保育の倫理教育の検討の一環として、保育を学ぶ学生を対象に、道徳的推論および、道徳的発達段階に関する質問紙調査を行い、実態把握を行うこととする。なお本研究では、道徳的推論とは「価値の対立を解決するために倫理的に理屈の通った行動をとるときに使う認知的過程」[16]と定義する。

Ⅱ．研究方法

1．研究対象者

A県にある私立大学・短期大学部に通学する保育を学ぶ学生178名

2．質問紙調査

総務庁青少年対策本部による調査[17]の一部を参考に、社会的規範意識・人生観と仕事に関する意識、および社会的存在性に関する意識に関する調査用紙を堀口らが作成している[16]。原著者からの許諾を得て、研究者が2度のプレテストを施行し、保育を学ぶ学生版を独自で作成した。また、道徳的発達段階に関する例話に関して、山岸の調査で6つの例話が用いられている[15]が、学生が考えやすい3つの例話を取り上げ各質問項目の単純集計をした。なお、道徳的

Table 1　道徳的発達段階の定義

水準1：慣習的水準以前	
第1段階	罰と服従への志向 罰を避け、力のあるものに対して盲目的に服従することは、それ自体価値あることとされる
第2段階	道具主義的な相対主義志向 正しい行為とは、自分の欲求や場合によっては他人の欲求を満たすための手段である。公平、相互性、平等な配分という要素は含まれるが、それは常に物質的で実用主義的に解釈される
水準2：慣習的水準	
第3段階	対人的同調、あるいは「よいこ」志向 善い行為とは、他を喜ばせたり、助けたりすることであり、他者から肯定されるようなことである。行為はしばしば、その意図の善し悪しによって判断され、「善良であること」によって是認を受ける
第4段階	「法と秩序」志向 権威や固定された規則、そして社会秩序の維持を指針とする。正しい行為とは、義務を果たすこと、権威への尊敬を示すこと、すでにある社会秩序をそれ自体維持することである
水準3：慣習的水準以降、自律的、原理化された水準	
第5段階	社会契約的な法律志向 正しい行為とは、一般的な個人の権利や社会全体によって批判的に吟味され一致した規準によって定められる傾向がある。私的な価値観や見解の相対性を明確に意識し、一致に達するための手続き上の規準を強調する
第6段階	普遍的な倫理的原理の志向 正しさは、論理的包括性、普遍性、一貫性に訴えて、自分自身で選択した「倫理的原理」に従う良心によって定められる。それらの倫理的原理は、抽象的であり、倫理的である（黄金律−己の欲するところを人に施せ、逓減的命令）

「ローレンスコールバーグ：道徳性発達における普遍的なものと相対性、永野重史編．道徳性の発達と教育〈コールバーグの理論の展開〉．を基に著者作成

推論のうち山岸の例話１～３に関する各項目について、それらは道徳的発達段階（第２～５段階）のいずれかに相当した質問となっており、その度数分布を示した。また、質問紙の具体的内容は表２～７に示す。道徳的発達段階の判定方法は、コールバーグによる方法表に基づき算出した[13]。

質問紙調査の実施期間は平成22年７月15日～平成22年７月22日であった。

３．倫理的配慮

倫理的配慮として、研究対象者には、授業の終わりに質問紙を配布した。配布する際、本研究の目的や意義・方法を述べ、本研究に参加協力する選択権を渡した。調査結果は目的以外に使用しないことや個人が特定できないようなデータとして抽出すること、秘匿を約束しプライバシー保護に努めた。

Ⅲ．研究結果

１．調査対象者の概要

調査対象は、男性17名、女性161名で、年齢は、18歳から42歳で平均年齢19.92歳であった。回収率は91％、有効回答数は162名であった。

２．社会的規範意識についての回答状況

質問Ⅰ（Table２）の満員の地下鉄で高齢者が立っている場面にどうするかという問いに対し、「どのような状況でも席を譲る」という回答が109名（68％）、次に「友人や知り合いと一緒にいる時は譲る」17名（11％）・「友人と一緒にいる場合は座っている」17名（11％）という回答数が多かった（Chart１）。質問Ⅱの車椅子を使用している障害者が困っている場面では、「どのような状況でも手伝う」が127(80％)、「その他」が18（11％）、「友人と一緒の時は通り過ぎる」５（４％）・「人が見ているときは手伝う」７（３％）という順に回答数が多かった（Chart２）。質問Ⅲの自動販売機に関する問いには、「友人と一緒ならやってみる」が57（36％）、「コインを入れて購入する」が55（34％）という回答数が多かった（Chart３）。

３．人生観とその仕事に関する意識について

設問は２つあり、１つ目は、「普段どのようなことを大切にしていきたいと思うか」という人の生き方を問うものである。１番大事な項目として、「毎日が楽しいこと」69（43％）、「身近な人との愛情を大切にする」69（43％）の回答が多かった。２番目に大事な項目は、「身近

Chart１

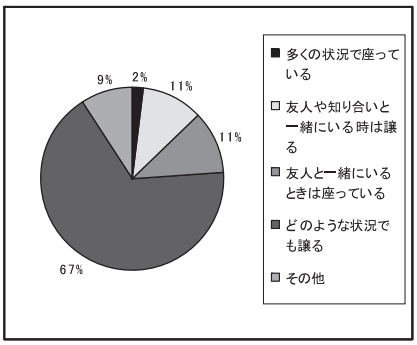


Chart２

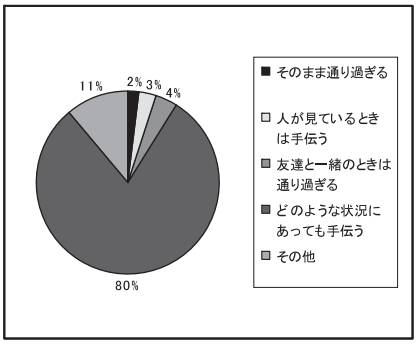
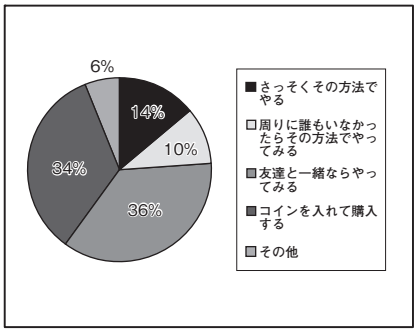


Chart３



な人との愛情を大切にすること」63（38%）、「毎日が楽しいこと」38（24%）の回答が多かった（Chart５）。３番目に大事な項目は、「社会の人々のために役立つこと」43（28%）、「自分の趣味や関心事を中心に暮らすこと」37（24%）の回答が多かった（Chart６）。

二つ目の設問は、「働く際最も大事にしていること」を問うもので、働く際の価値基準の優先度が解るものである（Table３）。一番大事な項目として、「経済的自立をする」41（25%）、「社会の一員として社会や人々の役に立つ」37（23%）、「自分の才能を生かす」36（22%）の回答が多かった（Chart７）。２番目に大事な項目は、一番大事な項目と同様に、「経済的自立をする」33（21%）、「社会の一員として社会の人々の役に立つ」42（26%）の回答が多いが、加えて仕事を通して「ほかの人々と社会的関わりを持つ」39（24%）が多くを占めた（Chart

Table２

質　　問	選　　択　　肢	回答数
Ⅰ．満員のバスであなたが座っている目の前に、高齢者の方が来て立っていました。あなたならどうしますか？	1　多くの状況で座っている	4
	2　友達や知り合いと一緒にいるときは譲る	17
	3　友達と一緒にいる場合は座っている	17
	4　どのような状況にあっても譲る	148
	5　その他	14
Ⅱ．あなたが横断歩道を渡ろうとしたとき、歩道に車いすを乗り上げられなくて困っている様子の人がいました。あなたならどうしますか？	1　そのまま通り過ぎる	4
	2　人が見ているときは手伝う	5
	3　友達と一緒のときは通りすぎる	6
	4　どのような状況にあっても手伝う	127
	5　その他	18
Ⅲ．ある人が自動販売機でコインを入れなくても飲料水を手に入れる方法を教えてくれました。あなたならどうしますか？	1　さっそくその方法でやる	23
	2　周りに誰もいなかったらその方法でやってみる	16
	3　友達と一緒ならやってみる	57
	4　コインを入れて購入する	55
	5　その他	9

Chart４

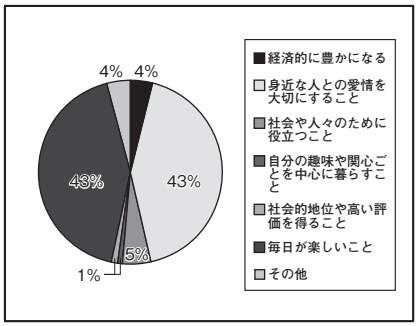
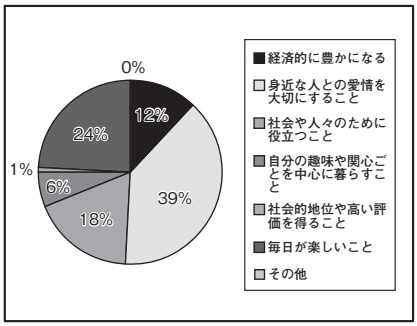


Chart５



８)。３番目に大事な項目では、「社会の一員として社会の人々の役に立つ」34（21％）や「豊かな生活を楽しむ」39（25％）の回答が多かった（Chart９)。

Chart 6

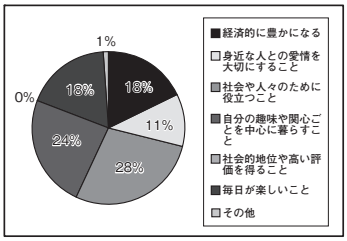


Chart 8

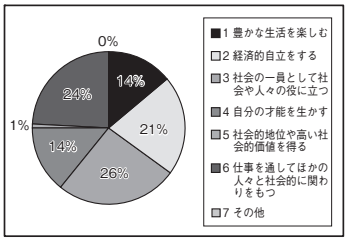


Chart 9

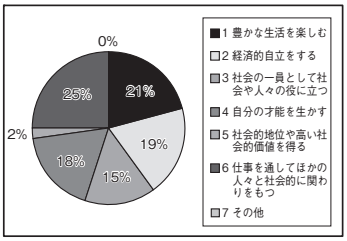


Chart 7

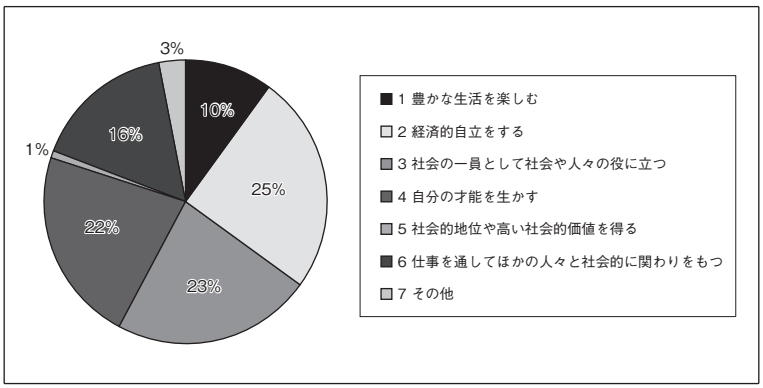


Table 3

質問	選択肢	第１位	第２位	第３位
人の生き方にはいろいろあると思いますが、あなたは普段どのようなことを大切にしていきたいと思っていますか？ 以下の項目であなたにとって価値が高い（大事だ）と思う順に、第１位から第３位まで順位を付けてください。	1　経済的に豊かになる	6	20	29
	2　身近な人との愛情を大切にすること	69	63	18
	3　社会や人々のために役立つこと	8	29	43
	4　自分の趣味や関心ごとを中心に暮らすこと	2	9	37
	5　社会的地位や高い評価を得ること	1	1	0
	6　毎日が楽しいこと	69	38	29
	7　その他	6	0	2
人の生き方と同様に、「働く」ことに対しての考え方もいろいろあると思います。あなたは、働く際最も大事にしていることを上から順に３つ選んでください。	1　豊かな生活を楽しむ	16	23	34
	2　経済的自立をする	41	33	30
	3　社会の一員として社会や人々の役に立つ	37	42	24
	4　自分の才能を生かす	36	22	29

Table 3

質問	選択肢	第１位	第２位	第３位
	5　社会的地位や高い社会的価値を得る	1	1	3
	6　仕事を通して他の人々と社会的かかわりを持つ	26	39	39
	7　その他	4	0	0

４．社会的存在に関する意識について

社会的存在に関する意識を問うために、17項目について回答を求めた。親の世話に関する質問では、「大いにそう思う」が93（57％）と半数以上を占め、「かなり思う」が48（30％）、「いくらかそう思う」が18（11％）という回答を得た。そのほかの項目に関してはTable４に回答数を示すこととする。

Table 4

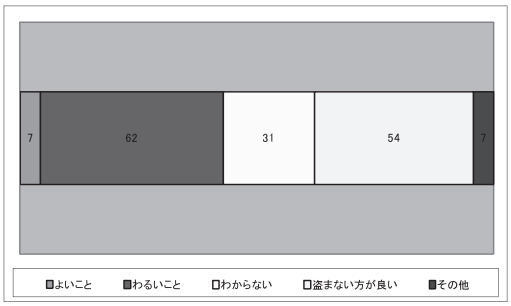
質問内容	回答数				
	大いにそう思う	かなり思う	いくらかそう思う	あまり思わない	全く思わない
1　親（養育者）が年老いたら世話や面倒を見る事は人として大切である	93	48	18	1	1
2　今の社会は、高齢者に対する配慮が足りない	26	55	60	20	0
3　今の社会は、障害者に対する配慮が足りない	30	51	62	18	0
4　人間の能力は個人で異なるのだから、能力によって地位や待遇に差があって当然だ	25	30	52	37	16
5　重要なことはみんなで話し合って決めるよりも、リーダーの決断の方が間違いが少ない	2	7	21	85	46
6　自分と考え方が違う人にも、その人にはその人の考える理由や動機がある	87	46	21	5	0
7　自分がどうしてもやりたいことがあるのに、無理に我慢してやらないのは間違いである	34	34	57	25	10
8　自分の目標に向かってやりとげるためには、多少悪いことをするのも仕方ない	8	17	42	70	24
9　人間としてやっていけないことはどんな理由があろうともやるべきでない	71	47	23	13	7
10　困っている人を助けることは人道的なことである	81	46	26	6	2
11　自分の生活を犠牲にしてまで、社会奉仕活動をする必要はない	21	29	73	29	9
12　ゴミの選別処理や地域の美化を守ることは、その地域に住むものとして当然である	32	23	11	4	1
13　地域に住む人々が気持ちよく暮らすためには、お互いがまんしなければならない	35	50	58	13	5
14　多少自分の考えや生き方と違っても、周りの人との和が大切である	48	48	52	12	1
15　周りの人と軋轢（あつれき）を生じる生き方は、その人が損をするだけである	17	37	72	29	5
16　自分や人々の自由は、法や道徳などの社会的規範によって守られている	26	37	77	20	1
17　自分や人々の権利は、人としての義務を果たすことによって守られている	32	36	70	20	3

５．例話に関する回答状況

１）例話１について

例話１は、「ハインツのジレンマ」としてよく知られるもので、妻の命を救うために夫が薬を盗むかという葛藤を取り上げている。まず、Ｉさんが薬を盗んだことをどう考えるか尋ねている設問である。「悪いこと」と考える回答は62（39%）、「盗まない方が良い」は54（34%）、「わからない」は31（19%）、「善いこと」と考える学生は７（４%）と回答した（Chart10）。

Chart10



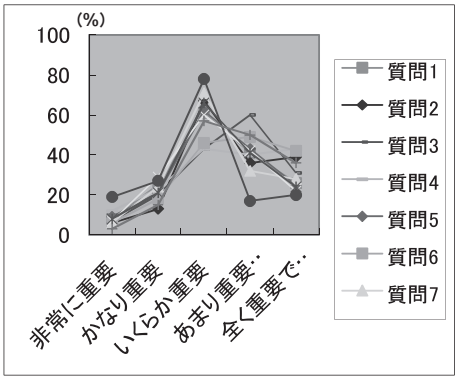
さらに、この設問を考える際に11項目（Table５）の重要度について回答してもらった。「非常に重要」から「全く重要でない」の５段階に分けられた分布はChart11に示す。さらに、道徳的発達段階の分布は、道徳的発達段階の判定方法[18]を用いて行いて算出したところ、設問番号３と６に関しては４段階だったがその他の設問は３段階となった。

Table５　この場合、法律が相川さんの欲求の実現をはばんでないか

設問番号	設　問　内　容
1	社会の法律がそのことを認めていいのか
2	愛する妻のことを思ったら自然かどうか
3	相川さんは刑務所に行くような危険を冒してまで奥さんを助ける必要があるかどうか
4	相川さんが盗むのは自分のためなのか、それとも純粋に奥さんを助けるためなのか
5	薬を発見した薬屋さんの権利は尊重されているかどうか
6	相川さんは夫として奥さんの命を救う義務があるのかどうか
7	我々が、他の人に対しどうふるまうかを決めるとき、根本となる価値は何だろうか
8	金持ちを守るだけの無意味な法により、薬屋さんは許されていいのだろうか
9	この場合、法律が相川さんの欲求の実現をはばんでないか
10	欲が深く残酷な薬屋は盗まれても当然かどうか
11	このような非常事態でも、盗むことが、薬を必要としている社会のほかの人々の権利を侵害することにならないかどうか

※道徳的発達段階の判定方法：例話ごと・設問ごとに１番重要から４番目に重要と選択された項目の段階に、それぞれ４、３、２、１の得点を与え、例話ごとに段落の値と得点を掛けたものを加え平均化して段階に算出する。

Chart11



２）例話２について

例話２は、安楽死のジレンマについて取り上げ、医師は妻の希望をかなえさせて良いものか問う話になっている。薬を内服することを「よし」とする回答は、45（30%）あり、「わからない」は62（40%）、「よくない」は41（20%）、

その他12（10%）であった。例話１と同様に12項目の設問（Table６）の重要度を答えさせた（Chart12）。道徳的発達段階を算出すると設問１と２は１段階であったがその他は３段階であった。

Chart12

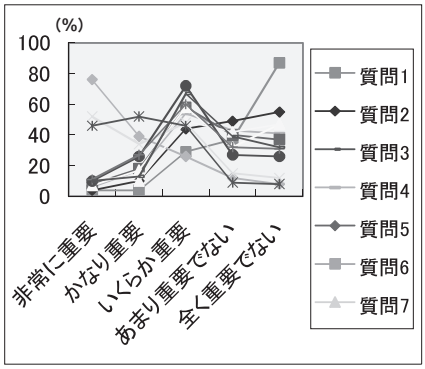


Table６

設問番号	設　問　内　容
1	奥さんの家族は安楽死させることに賛成かどうか
2	医者のなすべき義務は何だろうか
3	自由な死を禁ずる社会が必要なのかどうか
4	医者はそれを事故のように見せることができるかどうか
5	社会は生きることを望まないものに、生きることを強制する権利をもつかどうか
6	医者は奥さんの苦しみに同情して飲ませるか、それとも死なせてはかわいそうだから、何とか励ましてあげた方がいいのか
7	他人の命を絶つことを手伝うことが、本当にその人の人格を尊重する行為かどうか
8	いつ命を終えるべきかは、神のみが決めることかどうか
9	どちらの方が、ひどいことをしたと、世間の人々から思われるか
10	医者は自分自身の行動の基準として、どのような価値に一番重きをおいているのか
11	死にたい人に、責任や義務も顧みず（かえりみず）死ぬことを許してしまって、社会はうまく機能するのだろうか
12	社会が自殺や安楽死を許すことが、個人の生命の保証を脅かさないかどうか

３）例話３について

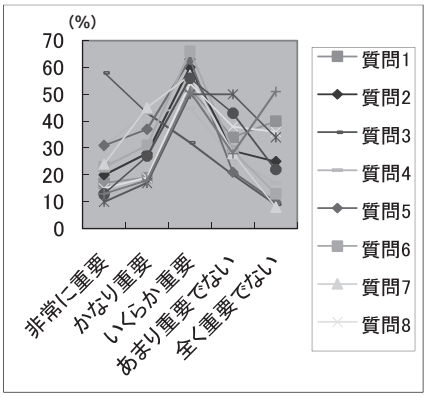
例話３では詐欺と盗みを比べてどちらが悪いかというジレンマを取り上げている。明確に兄弟のどちらが悪いと答えられた回答は、69（40%）であり、「わからない」は40（27%）、「兄弟どちらとも同じ」が19（13%）だった。例話１・２と同様に、11項目の設問（Table７）について重要度を回答させた（Chart13）。道徳的発達段階はすべての設問において３段階だった。

Table７

設問番号	設　問　内　容
1	親切な老人をだますというのは盗むよりもっとひどいことなのかどうか
2	盗みとだましとるのと、どちらの方が、より法律に反する行為か
3	倉庫に押し入って取るのと、だましとるのと、どちらの方が利口なやり方か

設問番号	設　　問　　内　　容
4	露骨に悪いことをやるのと、表面的には穏やかで下心があるのと、どちらの方が卑しい（いやしい）ことだろうか
5	資本主義社会で荒稼ぎしている会社の倉庫から盗むことは、動機によっては悪くないのかどうか
6	どちらの方が、人間関係の基礎にある価値を踏みにじっているのか
7	千夏くんの場合、直接的に困る人はおらず、達郎くんに比べると大きな害はないのかどうか
8	達郎くんは後悔して、あとで返すことがあるかどうか
9	どのような行為が最も深く他人を踏みにじり、そのことにより自分をおとしめるのだろうか
10	個人的におさまるかもしれない達郎くんと、社会的事件となる千夏くんと、どちらの方が社会的影響がおおきいのだろうか
11	どちらの方が自らやったことの結果を深く考え、引き受ける意思を強く持っているのだろうか

Chart13



Ⅳ．考察

本研究は、保育を学ぶ学生を対象に、1）社会的規範や社会的存在性に関する意識調査から道徳的推論を検討するとともに、2）道徳性を発達していくものとして捉える観点からその発達の状況を検討する。そこで、道徳的発達段階の尺度と照らし合わせて検討するために、1）と2）の項目について考察することとする。

社会的規範意識について、高齢者と障害者の場合についての質問は、援助が必要な対象

例話の内容

例話1	相川さんの奥さんが「がん」で死にかかっています。お医者さんは「ある薬を飲めば助かるかもしれないがそれ以外の方法はない」と言いました。その薬は新しい薬で、薬屋さんが100万円かけて作り、100万円で売っています。相川さんはできる限りお金を集めましたが50万円しか集まりませんでした。相川さんは薬屋さんに訳を話し、薬を安く売ってくれないか、または不足分を後で払うから50万円分売ってくれないか、と頼みました。でも薬屋さんは「私が薬を作りました。私がそれを売ってお金を儲けようと思っているのです」と言って頼みを聞き入れませんでした。相川さんはとても困って、その夜奥さんを助けるために、薬屋さんの倉庫に泥棒に入り、薬を盗みました。
例話2	ところが、その薬も奥さんにききませんでした。お医者さんはもう何もすることがありません。しかも、あと一か月くらいしか生きられないことがわかっています。奥さんの痛みはとてもひどく、麻酔もききません。奥さんはあまり苦しいので、お医者さんに、「もう我慢ができません。それにどうせ私はすぐ死ぬのです。どうぞ、死ぬための薬を飲ませてください」と頼みました。
例話3	千夏くんと達郎くんという２人の兄弟がいました。彼らは人には言えない訳があって、大急ぎでその町から去ろうとしています。そのためには10万円が必要です。千夏くんは、大きな会社の倉庫に泥棒に入り、10万円を盗みました。達郎くんは、困ってくれる人を助けてくれるという噂のある老人の所へ行って、「兄がひどい病気で、手術に10万円かかるのです。お金は必ず返しますから、どうぞ貸してください」と嘘を言って頼みました。達郎くんは返すつもりはありませんでしたが、達郎くんのことをよく知らない老人は、彼に10万円を渡しました。千夏くんと達郎くんはそれぞれ10万円ずつもって町から去っていきました

がいる場合、どのような行動をとるのか尋ねたものであった。今回の質問の設定では、高齢者の場合は一見しただけで援助性ははっきりしないが、障害者の場合は明らかに援助が必要とわかる場面だった。障害者は「どのような状況であっても手伝う」を選択する比率が、高齢者の「どのような状況にあっても譲る」という比率より高かった。これは、援助の必要性に確証があれば、次の行動、すなわち「手伝う」ことに直結しやすいが、席を譲るという事は譲っても断られるかもしれない状況では様子を見る事になるのかもしれない。

自動販売機に関する問いは自分の良心とその葛藤について尋ねた。ここでは多くを占めるのが、「友人と一緒だったらやる」という回答が多いことから、「友人」が一緒にいるかいないかで大きく影響を受けているように思われる。ここでは、対象が自動販売機という機械であるため、本当に聞いた方法でできるのか試してみたいという気持ちが強く作用するのかもしれない。機械が対象になる場合、直接的に人を騙したり、あるいは危害を加えたりという事をしないことから、良心との葛藤が感じにくくなるのかもしれない。

「人生観」では、「毎日が楽しいこと」が、「働くこと」については、「経済的自立をする」が重要と位置付けている。多くの研究で学生は経済的側面を重視するが、「毎日が楽しいこと」にも価値をおいているという事は、鈴木が指摘する「大学生の幼児化」の特徴とも言えるのではないだろうか。

社会的存在性に関する意識では、親の扶養義務を強く意識している傾向が強いと考えられる。また、理想とする社会（「高齢者や障害者への配慮がある社会」）を掲げるも（Table４：質問内容２・３、自分らが実際我慢したり調整したりなど行動を起こすことに対して消極的な状況が伺える（Table４：13）。これらから道徳的推論に関して、社会のあるべき理想の姿を持っているが、そこで直接的に自己が介在する場合、特に自分が我慢しなければならない等の状況下では、自己中心性があることにより理想とは異なる対応をすることが予測できる。いわゆる、自己を取り巻く人的環境に影響を受けやすいといえる。

次に道徳的発達段階についてだが、例話１～３ともに３段階に分布が集中していた。水準２の慣習的水準に位置する３段階が多いことは、保育を学ぶ学生らは対人関係に価値を置く傾向があるといえる。それを法律や秩序といった社会秩序を重んじる４段階へ発展していくためには、どのような教育が必要なのだろうか。

塚本らは[18]、道徳的発達を促進するには、個人と社会的環境との間にある相互作用における様々な葛藤を社会的視点から経験することが有効なのではないかと言っている。人間は、その時代の社会形態という現実の中で理性を持って生きている点で社会的存在であり、また人間の行為には理性による意思決定がある[19]。意思決定が道徳的に妥当であるかどうかはその社会規範により影響も大きい。日本の社会では対人関係の和に価値が置かれているという特徴が、保育を学ぶ学生の倫理的意思決定の際、影響を及ぼしているのではないかと考えられる。保育という人を対象にした相互作用が基盤になる仕事であれば、非常に人間関係（児と保育者・保育者と保育者・保育者と児の保護者等）を重視することは大切といえる。しかしながら、その対人関係を重視した考え方のみだと、社会・組織の一員として公平性や利益性からも最良であると判断する視点が欠ける危険性も孕む。いわゆる価値の対立の場面が予測できるということである。現代は、さまざまな価値観が存在する中で、どの判断を優先させたらよいのか、そしてそれはどのような経緯でなされた判断であるのかを明確に示すことが求められる時代ではなかろうか。状況によって、その人との関係性によって、倫理的判断の仕方が変わるというのではなく、基盤となる道徳性の内在化を目指すことが保育の教育において重要な目標である。

本研究では、保育を学ぶ学生を対象に、道徳的推論はその状況による影響を受けやすいこと、道徳的発達は人間関係に価値が置かれている段階にあることが明らかになった。今後、今

回の実態調査をもとに、保育を学ぶ学生の倫理教育に活用していけるような検討および施行が課題といえよう。

引用文献

1）岡谷恵子，日本看護協会看護倫理検討委員会，看護業務上の倫理的問題に対する看護職者の認識，日本看護協会〈日常業務上ぶつかる悩み〉調査より，看護，51, 30, 1992
2）秋元典子【教育場面から看護倫理を考える】学生に伝えたいこと，クオリティーナーシング，4(1)，22、2000
3）萩野雅，看護倫理をどのように教えるか，看護教育，37(1)，18, 1996
4）草刈順子，新たな視点からの法的位置づけの論議の必要性，看護管理，6(7)，472－476, 1996
5）石本つたえ，看護と「ケアの倫理」，クオリティーナーシング，6(3)，86, 2000
6）中川米蔵，医師と患者の関係，メディカルヒューマニティ，6(2)，1992
7）福留はるみ，倫理的感受性と倫理的意思決定，倫理問題を明確化するためのトンプソンの分類について，看護、51(2)，33, 1999
8）サラＴフライ，倫理的意思決定のためのガイド，13, 日本看護協会出版会，1998
9）兼松百合子他，生命倫理－倫理的な分析方法論について，生命倫理，3(1)，3, 1993
10）菅原スミ，倫理的ジレンマの構造と生命倫理原理－エンゲルハート「自律」「善行」の原理を分析視点として，生命倫理，7(1)，100, 1997
11）鶴宏史，アオテアロア／ニュージーランドにおける保育倫理綱領（第２版），National Working Group Members, Early Childhood Education Code of Ethics for Aotearoa/New Zealand , Wellington，1996.
12）大宮明子，道徳性の発達を促す教育－哲学者としての子供と良い子の押しつけをめぐって－，順天堂医療短期大学紀要，7, 93－100, 1996
13）ローレンスコールバーグ，道徳性発達における普遍的なものと相対性，永野重史編，道徳性の発達と教育〈コールバーグ理論の展開〉，新曜社，22－23, 1985
14）櫻井育夫，道徳的判断力をどう高めるか〈コールバーグ理論における道徳教育の展開〉，京都，北大路書房，59, 1997
15）山岸明子，青少年における道徳判断の発達測定のための質問紙の作成とその検討，心理学研究51, 92－95, 1980
16）堀口雅美，基礎看護学における看護倫理教育の検討－本学看護学生の道徳的推論と道徳的発達段階の特徴－，札幌医科大学保健医療学部紀要，５号，25－33, 2002
17）総務省青少年対策本部編，日本の青少年の生活と意識，大蔵省印刷局，109－126, 1997
18）塚本尚子，看護ジレンマ場面における道徳判断の発達と社会的相互作用」の関連性の検討，東京保険科学学会誌1，７－10, 1998
19）稲葉佳江，看護倫理教育の課題とその内容構成の試み，教授学の探究18, 145－161, 2001